

学 会 記 事

◎第7回理事会 (34.12.25) 出席者：田中会長，本間，富樫副会長，川村，尾之内，藤村，八十島，井口，川勝，西嶋，末森専務の各理事。報告事項：12月24日までの各種委員会，行事，会計，刊行物の報告。協議事項：1) 国鉄委託「構造物の耐震設計研究委員会」の委員および幹事を耐震工学委員会の次の提案どおり委嘱を承認。委員長：沼田政矩，副委員長：岡本舜三，委員：石井靖丸，金井 清，久保慶三郎，小西一郎，国分正胤，篠原武司，田中行男，田原保二，高橋好郎，友永和夫，那須信治，平井 敦，星埜 和，村山朔郎，最上武雄，横田周平，和仁達美，脇沢 正，幹事長：久保慶三郎，幹事：伊藤 学，池田康平，大地羊三，川口輝夫，橘 高元，後藤 巖，後藤尚男，小寺重郎，河野通之，笹沼元弘，白石俊多，土居則夫，野沢太三，伯野元彦，針ヶ谷佑，三木五三郎，御牧陽一，宮崎昭二，森本茂男，渡辺隆。2) 災害対策研究委員会の委員および幹事を次のとおり委嘱承認。委員長：岡田信次，委員：尾崎 晃，河上房義，本間 仁，岡本舜三，橋本規明，石原藤次郎，田中 清，永井莊七郎，水野高明，川村満雄，尾之内由紀夫，荒尾 茂，畑谷正実，奥田教朝，竹内俊雄，比田正，栗栖義明，石井靖丸，福内大正，和仁達美，友永和夫，大島義一，清野 保，中村武夫，小柳 弥，神谷貞吉，幹事：三木五三郎，渡辺隆二，箕輪健二郎，安芸元清，森本茂男，三浦誠夫，磯田秀雄，君島博次。3) 海外連絡委員会の改組を承認，機構その他は次回に決定のこと。4) 34年度土木賞委員会の構成は各支部の推薦を待つて候補者を決めること。5) コンクリート常置委員会に河野通之，池田康平両氏を追加委嘱承認。6) 英文論文集刊行は改組される海外連絡委員会で計画すること。7) 論文集の来年度計画について編集部において具体案を研究すること。8) 伊勢湾台風災害報告書刊行については災害対策研究委員会の中に小委員会を設けて計画することとし，次の幹事会において研究すること。9) 特別員増強について新しい資料にもとづき運動に着手すること。10) 学術会議新会員と学会との連絡機関を設けること。11) 11月中の会員入退会を承認。

◎各種委員会

1. 第33回耐震工学委員会 (34.12.7) 出席者：沼田委員長，友永，水越（代御牧），寺島（代遠山），高田，畠山，岡本の各委員。報告および議事：1) 地震工学会議の報告：a) 受理論文は日本 46，外国 57，計 103 編でプログラムの暫定案が決つた。b) 論文提出期限を4月15日に延期されたこと。c) 会議参加申込期限は3月31日と決つたこと，これについての会員告示を学会誌に登

載方依頼すること。d) 映画を会議で公開し，また外国参加者に御土産とする。3巻を予定しそのうちの1巻を「日本の地震工学」とし，シナリオ作製のため下記の資料提出を依頼すること。若戸橋（道路公団），藤原ダム（関東地建），神戸港第7突堤（第三港建），吉井川鉄橋（国鉄），佐久間観測装置（電源開発），三鷹研究所施設（運輸技研）。e) 資料展示を計画しているが決定してはいない。2) 地震工学トレーニング センター報告：近く世話役の主務官庁がきまる。地震工学会議において日本にこの機関設置について各国の要望を決議されるよう働きかけることとなつた。3) Messina 地震工学会議の報告：久保代表は12月6日出発した。論文2編と田中会長，沼田委員長のメッセージを携行した。4) 国鉄委託研究委員会の構成について：委員会の構成メンバーを決定し理事会付託とした。5) その他：畠山委員よりマルパッセ アーチ ダムの欠陥に関する情報説明があつた。次回は1月26日を予定する。

2. 第7回文献調査委員会 (34.12.3) 出席者：樋口委員長，津野，高野，安芸，今岡，日野，南雲，徳田，山村，国広の各委員，佐藤幹事。議事：1) 会誌45巻1号登載抄録および目録の選定。2) 1月号より会員の要望により目録の最後に原著者名を記入することに決定。3) 文献カードは1月31日までに分類し整理するよう申合せた。4) その他。

3. 第7回会誌編集小委員会 (34.12.8) 出席者：井口副委員長，浅井委員，深谷幹事。議事：1) 45巻1号会誌につき最終的な編集方針を決めた。2) 44巻12号の進捗状況について。3) その他。

4. コンクリート常置委員会 (34.12.11) 出席者：吉田委員長，国分副委員長，杉木，樋口，丸安，三浦，山田，小林，土岐，塚山，山崎，赤塚，浜本，岩崎，吉田，中村，岡部，川口，後藤，深谷，野口，中村，岩間，柳田，関，太斉，伊藤，永倉，西沢の各委員。内山，菅原，田村，友永の各PC委員会委員，池田，河野，国枝の各氏，末森専務理事。議事：1) 小委員会の現況について報告。2) 常置委員会の今後の運営方針につき審議。3) 河野通之（国鉄構造物設計事務所），池田康平（同所）の両氏を委員として追加委嘱。

5. 第3回土木賞規約制定委員会 (34.12.14) 出席者：星埜委員長，横田（代村），田原，最上，友永，高畑，後藤（代河上），丹羽（代後藤），庄司の各委員。議事：1) 委員会の構成につき前回に引続き活発に論議されたが，大勢は土木賞委員会と審査委員会の二本建にする意向となつた。2) 暫定措置として従来のおり土木賞委員会を構成し，その委員会において審査方針を立ててもらうこととなつた。3) 論文の選考範囲は本年度は従来どおりとし，推せん方式については，この委員会で研究を進めること。4) 賞の種類は学術賞，技術賞およびそれら

の奨励賞を34年度から実施するよう希望された。5) 委員会の構成、論文の範囲、推せん方式等について関西、東北、中部、本部各案を一応各委員に配布してどの案を採用するか、あるいは折衷案を次回(35.1.18)までに報告してもらうこととした。

6. 土木士制度制定に関する打合せ(34.12.17)出席者: 田中会長、富樫副会長、平山復二郎、鈴木雅次、尾之内由紀夫、比企元、久保義光の諸氏。議事: 1) 土木士制度制定について建築士および技術士との関連に関し、土木振興対策委員会に提出された(34.3.23 比企委員起草)説明書を比企氏から説明された。2) 委員会の着手する方針としては現行の技術士法の改正希望点について研究すること。3) 海外のこれに関する制度の資料を集めて研究すること。4) 建築士法のうち土木に關係する点をあわせ研究すること。5) 委員会名を「土木技術者資格研究委員会」とし委員は關係官公庁、民間会社から選考する。尾之内、久保両氏、末森専務が近日中に起案に当る。6) 委員会は制度について研究し、法律化する場合は別に機関を設ける。7) 委員の選考範囲は次のとおり予定する(決定せるもの)。委員長: 鈴木雅次、委員: 平山復二郎、田中茂美、富樫凱一、尾之内由紀夫、比企元、久保義光(選考を予定するもの)。建設省、運輸省、国鉄、農林省(清野建設部長内諾済み)、厚生省、通産省、コンサルタンツ、科学技術庁、参議院建設委員(武井 篤)、首都高速道路公団、会計検査院(増山辰夫)、電源開発、建設業者。

7. 第7回会誌編集委員会(34.12.22)出席者: 田原、井口正副委員長、北郷(北海道・代大坪)、後藤(東北)、田中(関西)、山崎(西部・代水野)各支部委員、奥村、大西、三浦、堀、中村、難波(代)、諫山、米沢、梶野・南部(代大河原)、田村、海保各委員、深谷幹事。議事: 1) 投稿原稿審査報告。2) 新規受付原稿審査委員の決定。3) 依頼原稿の進捗状況および新規依頼先の決定。4) 表紙の刷色については委員長に一任。5) 土木賞の経過報告。6) 伊勢湾台風災害報告書の作製を理事会に要望。7) 45巻2号登載原稿を次のとおり予定した。高橋克男: 紀勢線建設工事の問題点、長沢道行: 東北地方の開発促進計画について、鈴木忠義: 土木計画と観光、松本正雄: 重トラレーザ荷重に対するコンクリート舗装版の試験報告、上野忠男: 土木技術的に見た放射線障害防止施設について、井口昌平: テンターゲートの語源、藤井松太郎: 技術士制度について。

8. 第1回災害対策研究委員会(34.12.22)出席者: 田中会長、岡田委員長、岡本舜三、川村満雄(代岡崎)、荒尾茂(代谷口)、畑谷正実、奥田教朝、比田正、和仁達美、友永和夫(代西村)、大島義一、清野保(代佐々木)、尾崎晃(代大坪)、河上房義(代後藤)、石原藤次郎(代岩垣)、田中清、水野高明の各委員。箕輪健二

郎、安芸元清(代)、森本茂男、三浦誠夫の各幹事。議事: 1) 田中会長、岡田委員長からこの委員会の設立主旨について述べられた。すなわち風水害、震害等の速かなる調査とその技術的対策を研究する。2) 委員会の目的について次のように話合われた。a) 關係各官庁と連絡を取り資料を集める。また学会の海岸工学委員会、耐震工学委員会、水理委員会の専門的研究資料を集めて総合の方策について研究する。b) 政治的活動の基礎となる技術的資料をまとめて国政審議の途を開く。c) 研究成果をまとめて指針を作る。d) 学会の各支部に必要な応じ依頼して調査に協力を求める。3) 委員会の構成メンバーについて。4) 委員会の運営方法について。a) 本委員会の前に幹事会を2回くらい開いて運営資料を作る。第1回を1月12日(火)14時に予定する。本委員会を1月下旬に開くこと。b) 各委員は幹事会に意見を出すこと。5) その他: 調査に要する旅費等は文部省科学研究費を要請して大学関係は学会から支出するようにする。官庁関係は各官庁から支弁してもらうようにする。

9. 海外連絡委員会(34.12.23)出席者: 田中委員長、東(代久田)、石原、富樫(代樽井)、藤井(代)、本間、最上、山本(代中安)の各委員、平井幹事。議事: 1) 1960年度国際会議派遣代表候補者を決定。2) 本委員会改組のため一応全委員解任に決定。

支 部 だ よ り

○東 北 支 部

34年度下半期事業の巡回映写会および講演会

参加者 約9000名

| | | |
|-------------------|--------|-----------|
| 盛岡 | 10月2日 | 映写約2時間 |
| 青森(五所川原) | 10月6日 | 〃 |
| 秋田 | 10月12日 | 〃 |
| 山形 | 10月21日 | 〃 |
| 福島 | 10月24日 | 〃 |
| 仙台 | 11月24日 | 映写会および講演会 |
| 講演: 「原子力の話」約1.5時間 | | |
| 東北電力原子力調査部長 小原周三氏 | | |

○関 西 支 部

1. 技術講座3号(昭.34.12.7~8,2日間,大阪大学工学部構築工学教室)

1) 講座名と講師: 日本水害史

大阪大学教授 工博 田中 清

2) 参加費: 100円(テキスト代をふくむ)。

参加者: 55名(うち49名修了証書交付)。

2. 第1回学生見学会(昭.34.12.12)

a) 見学会:

1) 第二阪神国道工事 甲子園高架橋架設工事
同 上 武庫川橋梁架設工事

- 2) 大阪市地下鉄工事 長居駅付近(開削式工法)
同 上 梅田延長工事(ケーソン工事)
- b) 参加者: 128 名
3. 第8回幹事会(昭.34.12.19, 近畿地建企画室長室)
出席者: 江口支部長, 伊藤, 中川, 後藤, 大野, 石田,
北村の各幹事。

関係団体だより

日本都市計画学会では故石川栄耀博士記念事業として

編集 後記

毎年表紙の色をきめるのに苦労します。数種類仮印刷させてようやく現在のものに決めました。4年間で大体基本カラーは出つくしたので来年からは中間の流行色などを用いようと思います。学会誌の平均ページ数も前年度に比較して今年度は15%ほどふえ、相当予算を超過しつつあるので困っております。しかし会誌の充実は学会の使命でありますので万難を排して豊富な記事を盛るよう努力しています。

コイン氏の設計として経済性を強調したフランスのマルパッセダムが去年の12月突然欠壊しました。速報を12月号に出したかったのですが信頼すべき情報が入りませんでしたので1月号にとりあえず判つていただくだけお知らせします。いづれ

調査委員会の結論が判明次第、続報をのせるつもりです。電研, 土研, 読売新聞社などから資料の提供を頂きましたので謝意を表します。徹底的に原因の究明がなされ、各国のアーチダム設計に重大な問題を提起してほしいものです。

次号には紀勢線建設に当つての主要点, 東北地方開発促進計画, 土木計画と観光と名づけた一寸変つた資料, 381tの重量トレーラーの通過試験を行つた日立国道のナマのデータ, 技術士制度に対する見解, 放射線障害の防止施設などの原稿を予定しています。工事報告も平面的な記述より問題点を強調して頂くとか, 現場の失敗例などが大いに参考になるのですが, なかなか失敗した方の資料は出にくいようです。

これから少なくとも4年間, オリン

石川賞を設置し, 都市計画に関し特に優秀な業績をあげた者にこれを授与することを定めた。石川賞は毎年一回授与されるが, 第1回は昭和34年中に発表された論文, 計画, 調査, 設計等を対策として選考される。

応募される方は本論文にその概要と都市計画学会員の推せん状を添えて昭和35年2月10日までに, 都市計画学会内, 石川賞選考委員会まで提出することになっている。

ピックの始まるまでは建設ブームが続くでしょう。結構なことではありますが, 反面技術者はますます酷使されるでしょう。予算があつても人手がない敷きは各方面とも相当深刻なようです。とくに土木工学を専攻する学生数は飛躍的な増大が望まれます。大いに土木工学のPRにつとめ優秀な学生をスカウトするとともに, 文部省あたりに強力に働きかける必要があります。何事につけても与論というものは大きな力があるものですから, 日頃から会員各位は大いにPR精神を発揮されることが必要だと思います。国土の修繕屋あつかいにされているのは実に残念なことです。

では黄金の年といわれる1960年の第一歩を健康に, そして力強くふみ出しましょう。

会員入退会について(昭和34年12月31日現在)

- | | |
|--------|--------------------------------------|
| 1. 入 会 | 76 名 (正 22, 学 52, 特 1 C 1, 特 3 1) |
| 2. 退 会 | 19 名 (正 19) |
| 3. 転 格 | 5 名 (特 2 より特 1 B へ 4, 特 3 より特 2 へ 1) |

会員現在数(昭和34年12月31日現在)

| 名誉員 | 賛助員 | 特 1 A | 特 1 B | 特 1 C | 特 2 | 特 3 | 正 員 | 学生員 | 増加 | 計 |
|-----|-----|-------|-------|-------|-----|-----|--------|-------|----|--------|
| 29 | 30 | 17 | 16 | 73 | 109 | 97 | 13 490 | 1 035 | 57 | 14 896 |

| | | | | |
|-----|-----------|----------------|----------------------|------|
| 正 員 | 岩 崎 瑩 吉 君 | 都世田谷区砧町 74 | 昭和 34 年 12 月 4 日 死去 | 60 才 |
| 正 員 | 青 木 利 一 君 | 九州コンクリート工業 K K | 昭和 34 年 12 月 16 日 死去 | 58 才 |

昭和 35 年 1 月 15 日印刷

印刷者 大沼正吉
発行者 末森猛雄

定 価 100 円

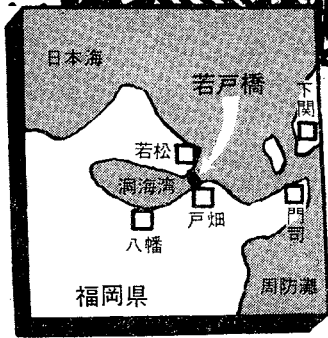
昭和 35 年 1 月 20 日発行

印刷所 株式会社 技報堂
発行所 社団法人 土木学会
替振 東京 16828 番

土木学会誌 第45巻 第1号

東京都港区赤坂溜池5番地
東京都新宿区四谷一丁目(外濠公園入口)
電話 (35) 5130・5138・5139 番

夢のかけ橋



近年、国土開発の動脈ともいえるべき優良道路の建設がいそがれていますが、海にかこまれ、河川の多いわが国では、この国道の発展とともに、大型・軽量・堅牢な橋梁が最も要求されています。

このたび北九州工業地帯の要衝の地、若松市と戸畑市を結ぶ洞海湾に、東洋一の規模といわれる吊橋「若戸橋」が架けられることになりました。

日立造船は、この建設工事の中核となる橋塔と中間橋脚の製作・架設工事をひきうけます。創業以来、各種の道路橋・鉄道橋を建設してきた専門メーカーとしての豊富な経験と斬新な技術・設備が生かされるわけです。

| 当社の施工する鋼材重量 | | | |
|-------------|---|------|---------|
| 戸 | 側 | 橋 | 塔 |
| 松 | 側 | " | 1,900トン |
| 若 | 側 | 中間橋脚 | 1,900" |
| 戸 | 側 | " | 300" |
| 若 | 合 | 計 | 300" |
| | | | 4,400" |



日立造船

創業1881年

本社 大阪市北区中之島2丁目25
電話 大阪(23) 8-0511~9
東京支社 東京都千代田区丸の内2丁目20の1
電話 東京(28) 52311~9